



平成 26 年 11 月 10 日

第 1 回オリンピック・パラリンピックに伴う

大規模施設対策等小委員会を開催

日本物流団体連合会は、11月7日、TKP市ヶ谷カンファレンスセンターにおいて、第1回オリンピック・パラリンピックに伴う大規模施設対策等小委員会を開催した。

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、大規模施設の建設が相次ぐことが推測されるが、これを契機として、そのような大規模な施設に関し、建築・設計段階から物流を考慮した手順を経ることで、建設中の渋滞等の回避や完成後の建築物の利便性向上など、物流事業者、建物の施工主双方にプラスに作用する提案を目指すもの。9月の物流環境対策委員会で、その設置が議決され、このたび第一回の会議が開催されたもので、会員企業・団体から17名が参加した。

冒頭、物流連の大庭理事長より挨拶があり、物流業界としては新たな取り組みであるが、物流事業者側から積極的に課題を指摘し、改善方向についてアイデアを出し、具体的な提案を行いたい、また官民連携で取り組むことで、より良い成果を目指していきたい、との考えが示された。

委員会の座長には、物流を考慮した街作りなどの研究に30年程携わってきた、流通経済大学の苦瀬博仁教授が選任された。苦瀬座長は、冒頭の挨拶の後、過去の五輪経過を踏まえて2020年に向けたテーマと課題についての講演を行った。

その後、ゲストスピーカーとして招かれたSBSロジコム（株）の担当課長から、多くの建築物の館内物流を構築し、実際に物流の効率化を推進してきた経験に基づき、種々の問題点や改善策が説明された。

委員からは、実際の物流現場で感じた問題点・改善要望などの指摘が行われた。そのような課題について、後日アンケート調査を行い、次回以降の小委員会における基礎資料としていくこととなった。

今後は、会合の開催を重ねながら、大規模施設の建設計画段階から物流業者の意向を反映する手順や、望ましい物流スペースなどにつき検討を進める。また、オリンピック・パラリンピック関係の施設建設に伴う渋滞などにつき、行政などから情報が得られれば、共有していくことが確認された。

以上
事務局：笹山



小委員会全景



冒頭で挨拶する物流連大庭理事長



小委員会座長に選任された、苦瀬教授



SBSロジコム(株) 三身課長